

素敵な大人と出会い、体験を積み重ね 『進学事典 研究号』で進路探しを開始

芦花高校(東京・都立)

東京都立芦花高校では、従来型の受け身中心の学びのスタイルから脱却し主体的に学ぶ生徒を育てるため、キャリア教育を中心に据えた教育活動を進めている。その名も「この子たちの夢を3年後に叶えてあげようプロジェクト」。「意欲喚起」「主体的な学びへの行動変容」「未来を拓ける人材育成」を目指し、さまざまな取り組みを行っている。

1学年では奉仕活動や大学生との交流で視野を広げる

キャリア教育を実施するのは主に1・2学年の総合的な学習の時間。担当はキャリアガイダンス部で、所属する9人の教員のうち各学年2人がその学年のキャリア教育を先導する。今年度2学年担当の設楽幸愛先生は教員になって2年めだが、「キャリア教育によって生徒たちが目に見えて力をつけていく様子に驚く日々」という。

取り組み内容としては、1学年ではまず多くの大人に出会うことが中心となる。奉仕活動などを通して地域の人と協働し、大学生と話し合い、職業人インタビューでは自分でアポをとって会いたい人に会いに行く。1月からはこれらの活動をグループごとにまとめ、翌年度の新入生に向けてプレゼンする。「1年間の取り組みを通して、プレゼンなどの技術的な向上はもちろん

ですが、社会に目を向ける姿勢が育っていると思います」と設楽先生は言う。

具体的な進路選びのために調べ、まとめ、発表する

これらの学習を経て、2学年が始まるとすぐに具体的な進路を考えるための取り組みに入る。「進学を前提とすると秋には履修登録をしなくてはなりません。あせって登録し失敗や後悔することのないよう、余裕をもって早めに考えさせたい。その際、しっかりと自分で考え、自分の力で調べさせたい」と設楽先生。ただし、2年生のほかに進路希望が固まっている生徒は少ないので、そのきっかけづくりとして『進学事典 研究号』を活用している。

4月、生徒一人ひとりに『進学事典 研究号』を配布し、付属している適性検査を実施。5月、紆余曲折を経て進路を決めた大学生3人を招き、全員で体験談を聞く。その後、適性検査の結果を受け取る。適性があることされた職業や学問の上位3つについて簡単に調べ、その中から1つか2つを選び(学問でも職業でもよい)詳しく調べる。もちろん、適性検査の結果によらず、自分の興味のある分野について調べてもかまわない。

調べる際は主に『進学事典 研究号』を使うが、同校ではスマートフォン所持が許可されているので、各々がネットを使って調べてもよい。設楽先

生は進路選びサイト「リクナビ進学」の使い方を示すなど、なかなか進まない生徒も必ず仕上げられるようにバックアップしていく。最終的にはA4用紙1枚にまとめる(図参照)。

昨年度までは、この作業を進めるためにまずは細かく書き込むワークシートを使っていたが、今年度はA4の用紙にほぼフリースタイルで書かせることにした。その理由を設楽先生は「一人に見せることが前提の調べ学習です。楽しんで作業してほしいし、見るほうもおもしろいほうがよいと考えています。フリースタイルにすると、図式化するのが上手、絵が上手など才能を発揮する生徒がいて、生徒同士刺激も受けあいます。また、こういったものをつくり上げる発想力、表現力、プレゼン力は社会で必要とされる能力ですから」と言う。まとめたものはチーム内で発表しあい、その後、学園祭で掲示したり、冊子にして自由に閲覧できるようにする。

なお、2年生の夏休みにはオープンキャンパスへの参加を必須とし、大学生3人へのインタビューとA3用紙を使ってのまとめ作業にも取り組む。

こうして、体験し、調べ、まとめ、発表するという取り組みを繰り返しながら、進路志望を絞り込んでいく。「社会人インタビュー、オープンキャンパスインタビュー、プレゼンなどが苦手な生徒もいます。けれども、こちらが絶対にやらせるという気持ちで取り組み組んで仕上げます。そこから、こちらの想像を超えた能力を発揮する生徒たちがたくさんいます。こういった経験を糧に、進路を切り拓いてほしいと願っています」と設楽先生。取り組みを通じて、進路について主体的に考える力が確実に育っていることを実感しているそうだ。

スクールデータ

生徒数714人(男子245人・女子469人)
普通科18学級
進路状況(2014年度)／卒業生238人
中 大学進学145人、短大進学18人、
専各進学52人、就職3人、その他20人

東京都世田谷区粕谷3-8-1
電話03-5315-3322
http://www.roka-h.metro.tokyo.jp

取材・文／永井ミカ

リクルートサービスを活用した指導実践例

「芦花生「進路辞典」」



興味のある進路について調べ、A4用紙1枚にまとめて発表。のちに「芦花生「進路辞典」」として冊子にする。

キャリアガイダンス部
2学年担当
設楽幸愛先生



「キャリア教育は生徒のポテンシャルを引き出すことができる教育。少々高いハードルも生徒たちは飛び越えていき、そのエネルギーが学校全体にいい刺激を与えてくれます」